様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３２５１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００００８４

研究課題名（和文）イスラームの思想をめぐる包摂・摩擦・排除～タイの新旧グループの対立を媒介にして～

研究課題名（英文）Inclusion, Friction and Exclusion over Islamic Thought – Conflict between Khana Kao (Old Group) and Khana mai (New Group) in Thailand

研究代表者
柴山　信二朗（Shibayama, Shinjiro）

帝京平成大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：４０５７２２３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、「カナ・カオ（古いグループ）」と「カナ・マイ（新しいグループ」のグループ概念を調査し、丁寧に読み解くことにより、各グループに包摂されるイスラームの様々な思想を明らかにし、更に、それらの思想がどのように摩擦を起こし、対立グループから排除されているのか、その関係性を読み解くことを目指した。その結果として主に次のことが明らかとなった。（１）「カナ・カオ」、「カナ・マイ」のグループ概念と変遷及び摩擦・対立の図式、（２）「サーイ・スーフィー（スーフィズムの潮流）」と「カナ・カオ」、「カナ・マイ」間の摩擦・対立・共生と地域差、（３）シーア派イスラーム社会における「カナ・カオ」と「カナ・マイ」。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、タイのイスラーム研究において主な対象とされてこなかった宗派・学派や思想に焦点を当て、新旧グループである「カナ・カオ」と「カナ・マイ」の対立を媒介にして、それぞれのグループに包摂される様々な思想を明らかにし、それら思想の関係と対立を生じさせる図式を解明した。これは、タイのイスラーム研究における視点の拡大に寄与するものといえる。また、「カナ・カオ」と「カナ・マイ」に付随して明らかになったタイのスーフィズムやシーア派に関する研究成果は、既存のタイのイスラーム研究ではほとんど扱われることがなかったテーマであり、タイのイスラーム研究に新たな方向性を提示することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research project, I have conducted a research about the group concepts of "Kana Kao" (old group) and "Kana Mai" (new group) in order to elucidate the various Islamic ideologies of each group. Furthermore, I aimed to clarify how these ideologies generate friction and lead to exclusion from opposing groups. As a result of this research, the following points were primarily clarified: (1) the group concepts of "Kana Kao" and "Kana Mai" and their transition, and the mechanism of generating friction and conflict between both groups, (2) the friction, conflict and coexistence among "Saai Sufi" (currents of Sufism), "Kana Kao" and "Kana Mai," and regional differences, and (3) "Kana Kao" and "Kana Mai" in the Shia Islamic society.

研究分野：社会人類学　地域研究　宗教学

キーワード：タイ　イスラーム　宗教思想　宗教実践　スーフィズム　スンナ派　シーア派　聖者信仰

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

タイのイスラーム社会において「カナ・カオ（古いグループ）」、「カナ・マイ（新しいグループ）」と称される新旧グループの対立が指摘されて久しくなる。既存研究は「カナ・カオ」を土着的慣習が入り混じった伝統主義グループ、「カナ・マイ」をイスラーム復興主義者またはイスラーム改革主義者のグループと捉え、両グループの対立を二分法で論じてきた。「カナ・カオ」には、スンナ派シャーフィイー法学派やイスラーム復興主義の思想が強いタブリーギー・ジャマーアトの活動に参加する人々も位置付けられる一方、「カナ・マイ」には自称サラフィー主義者、他称ワッハーブ主義者の他、「カナ・カオ」にも位置付けられるタブリーギー・ジャマーアトに賛同する人々も位置付けられることがある。しかし、各グループの特性を丹念に調べた研究はこれまでのところ見当たらない。そのため、両グループの対立についても、その概念枠組みの範疇での解釈に留まっており、各グループに包摂される諸宗派・学派のイスラーム信条・依拠するハディース集・ウラマーなどの思想の根源をなす要素が勘案されることがなかった。このように「カナ・カオ」、「カナ・マイ」の概念は錯綜しており、二分法で捉えられるものではない。両グループの対立を二分法で論じていくことは、本来多様性のあるタイのイスラームのあるべき姿を見失させ、対立の本質を見誤させることになる。そこで、深刻化する「カナ・カオ」と「カナ・マイ」の対立について、これまで主に焦点が当てられることがなかった様々な思想に着目し、対立構造を明らかにすることで、タイのイスラーム研究に新たな視点を投じることにした。

２．研究の目的

本研究では、「カナ・カオ」と「カナ・マイ」のグループ概念を調査し、丁寧に読み解くことにより、各グループに包摂されるイスラームの様々な思想を明らかにし、更に、それらの思想がどのように摩擦を起こし、対立グループから排除されているのか、その関係性を読み解くことを目指す。より具体的には、①タイのイスラームにおける「カナ・カオ」と「カナ・マイ」のグループ特性、②タイのイスラームの様々な思想、を明らかにし、これらの考察を通して、タイのイスラームの思想をめぐる包摂・摩擦・排除の構造とメカニズムを描き出すことを目指す。

３．研究の方法

バンコク、バンコク近郊及びムスリムが地域人口の大半を占めるタイ南部を主な調査地としてフィールドワークを実施し、また、タイのイスラームに関する現地語資料を収集する。併せて、先行研究等の二次資料及びタイ語関連 WEB サイトからの情報も活用する。これらを通して得られた情報等を分析することを主な手法とする。より具体的には、調査地におけるイスラームを巡る様々な思想を解明するために、モスク・宗教学校等においてイマーム及び宗教学校教師を中心に各宗派・学派の調査地における思想についてインタビュー調査を実施する。また、調査地における「カナ・カオ」、「カナ・マイ」の捉え方を調べるために、モスク・宗教学校を中心にイマーム、宗教学校教師、モスクを訪れる人々、生徒に対して、「カナ・カオ」、「カナ・マイ」の捉え方に関するインタビュー調査を実施する。更に、調査地における「カナ・カオ」と「カナ・マイ」の摩擦・対立について、各グループの代表的ウラマー（イスラーム有識者）に思想と新旧グループの対立の論点についてインタビュー調査を実施する。

４．研究成果

本研究を通して、主に以下の知見を得ることができた。

(1)「カナ・カオ」、「カナ・マイ」のグループ概念と変遷及び摩擦・対立の図式

本研究により、「カナ・カオ」、「カナ・マイ」のグループ概念とその変遷及び摩擦・対立の枠組みを明らかにした。

「カナ・カオ（古いグループ）」の名称は「カナ・マイ（新しいグループ）」が出現したことにより生まれた。それまで地域にあったイスラーム思想と実践とは異なる思想と実践が入ってきたことにより、従来の思想と実践を維持するムスリムはカナ・カオと称されるようになり、新たなグループはカナ・マイと称されるようになった。カナ・マイという呼称が使用されるようになった時期は 19 世紀後半～20 世紀初頭だと推測できる。タイのイスラーム社会に最初に出現したカナ・マイはイスラーム改革主義だった。20 世紀初頭以降、カナ・マイには様々なグループが現れている。イスラーム改革主義に加えて、イスラーム復興主義、サラフィー主義などと称されるカナ・マイのグループは、カナ・マイの別称でもある「サーイ・マイ（新しい潮流）」の中で出現してきた。マレー・イスラーム世界であるタイ南部では、初期のカナ・マイは個人レベルでの現象に留まった。例えば、ハッジ・スロンは 20 年以上に亘る中東での滞在中にイスラーム改革思想の影響を大いに受けて、帰国後に各地のモスクや自身が設立したイスラーム学校でその思想を伝えようと努めたが、当時のタイ南部ムスリムの目にはその姿は奇異なものと映り、ハッジ・スロンの教えは顕在化することはなかった。一方、仏教徒が多数を占めるタイ中部では南部よりも早い時期にカナ・マイは個人レベルから社会レベルへの動きに移っていった。インドネシアからの移民であるアフマド・ワッハーブはイスラーム改革思想を伝播し、それはナコンシータ

マラート県などの南部や南部国境地域までに及ぶ社会的な動きとなった。この初期のカナ・マイの流れはカナ・カオとの間に目立った摩擦・対立を生じさせたとの報告は特段見られない。その後 1980 年代になると、イスラーム復興主義タブリーグ・ジャマアートの活動が活発化し、第 2 期カナ・マイの時代が到来した。この頃にはカナ・カオとカナ・マイの間にイスラーム思想と実践の違いから生じる摩擦が観察されるようになる。両グループ間の摩擦が対立へと昇華するのは、第 3 期カナ・マイと称することができる 2000 年代前後のサラフィー主義の台頭以降のことである。一方、サーイ・マイの潮流におけるカナ・マイの変遷とは異なり、カナ・カオはその別称である「サーイ・カオ（古い潮流）」の中で、カナ・マイからは非イスラーム的と誹謗される実践を維持し続けている。

(2)「サーイ・スーフィー」と「カナ・カオ」、「カナ・マイ」間の摩擦・対立・共生と地域差

本研究を通して、タイのイスラーム社会には「サーイ・カオ」・「サーイ・マイ」の 2 大潮流の他、「サーイ・カオでもサーイ・マイでもない」と呼ばれることがある「サーイ・スーフィー（スーフィズムの潮流）」の流れが存在することが明らかとなった。サーイ・スーフィーの潮流は、カナ・マイからイスラーム的ではないと見做されている。また、カナ・カオの中にもそのように見做す人々がいる。カナ・マイであれ、カナ・カオであれ、サーイ・スーフィーをイスラーム的でないと見做すのは、その「聖者信仰」の要素である。聖者信仰をサラフ時代の慣行に反する、神以外の存在を崇める行為であり、非イスラーム的慣行であると見做し、批判する。このため、サーイ・スーフィーはカナ・カオでもカナ・マイでもないと言われる。サーイ・スーフィーは第 3 の潮流とも見做すことができる。

タイにおいてスーフィズムは「見えない・存在しない」とも表現されることもあるが、スーフィズムやスーフィー教団（タリーカ）は地域差こそあれ確実に存在している。タイではカーディリー教団、シャージィリー教団、アフマディー教団が 3 大タリーカである。本研究ではその内カーディリー教団に着目し、その伝来と広がり、及びネットワークの一端を明らかにした。そして、カナ・カオやカナ・マイとの間でのイスラーム思想と実践の違いからの摩擦や対立を経験した後、互いの相違を認め合い共生を探る様子が明らかとなった。例えば、タイ中部ではカナ・カオ系モスク、カナ・マイ系モスク、サーイ・スーフィー系モスクの 3 つのモスクが共存しているコミュニティもある。一方、マレー・イスラーム世界であるタイ南部ではサーイ・スーフィー系モスクがあるムスリム・コミュニティは認められず、地域差のあることが明らかになった。

(3)シーア派イスラーム社会における「カナ・カオ」と「カナ・マイ」

本研究を通して、タイのシーア派イスラーム社会における「カナ・カオ」、「カナ・マイ」の存在と繋がりの一端が判明し、更に、シーア派イスラーム社会においては「カナ・カオ」と「カナ・マイ」間の摩擦や対立が顕在化していないことが明らかになった。

カナ・カオとカナ・マイは、タイのイスラーム社会において主流派であるスンナ派イスラーム社会での現象と捉えられる傾向にあるが、シーア派イスラーム社会においても観察できる現象である。シーア派イスラーム社会における新旧グループは「シーア・カオ（古いシーア）」、「シーア・マイ（新しいシーア）」と呼ばれる。シーア・カオは古くからバンコクや南部等に、シーア・マイは 1979 年イラン革命以降にバンコク近郊や南部等にモスクやクディ（宗教施設）を構え、コミュニティを形成している。シーア・カオは元々シーア派だった人々で、一方シーア・マイは 1979 年イラン革命後に出現したスンナ派からシーア派に改派した人々である。シーア・マイはシーア・カオが実践しているようなアーシューラーの祭事でおこなわれる頭を剃り流血させるような伝統的な風習をおこなわない点が特徴的である。タイのシーア派イスラーム社会ではシーア・カオ系モスクで開催される宗教祭事にシーア・マイとシーア・カオのムスリムが共に参加し、各々の宗教実践を体現する等、スンナ派イスラーム社会で観察されるような摩擦や対立は顕在化していないことが明らかになった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第57巻第5号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その64■タイのイスラーム スーフィズム／カーディリー教団(3)	５．発行年 2023年
３．雑誌名 公益財団法人日本タイ協会『タイ国情報』	６．最初と最後の頁 70-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第57巻第6号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その65■タイのイスラーム スーフィズム／カーディリー教団(4)	５．発行年 2023年
３．雑誌名 公益財団法人日本タイ協会『タイ国情報』	６．最初と最後の頁 66-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第58巻第1号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その66■タイのイスラーム スーフィズム／カーディリー教団(5)	５．発行年 2024年
３．雑誌名 公益財団法人日本タイ協会『タイ国情報』	６．最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第56巻第3号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その59－タイのイスラーム カナ・カオとカナ・マイについての考察(1)	５．発行年 2022年
３．雑誌名 タイ国情報	６．最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第56巻第4号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その60－タイのイスラーム カナ・カオとカナ・マイについての考察(2)	5．発行年 2022年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第56巻第5号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その61－タイのイスラーム シーア・カオとシーア・マイについての考察	5．発行年 2022年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 66-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第57巻第1号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その62－タイのイスラーム スーフィズム／カーディリー教団(1)	5．発行年 2023年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 62-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第57巻第2号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－その63－タイのイスラーム スーフィズム／カーディリー教団(2)	5．発行年 2023年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第55巻第4号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情 ーその55ー 南アジア系ムスリム：ナーナー／ボーラ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 76-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第55巻第5号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情 ーその56ー 第16代プラスゥートと深南部との連携	5．発行年 2021年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 56-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第56巻第1号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情 ーその57ー 第16代プラスゥートと深南部との連携	5．発行年 2022年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 52-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山信二朗	4．巻 第56巻第2号
2．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情 ーその58ー イスラーム文化遺産博物館／コーラン学習センター	5．発行年 2022年
3．雑誌名 タイ国情報	6．最初と最後の頁 58-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第54巻第3号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－ その52 － タイの公的イスラーム 政治に翻弄された第14代目チェーム	５．発行年 2020年
３．雑誌名 タイ国情報	６．最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第54巻5号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－ その53 －タイの公的イスラーム 第14代目チェームと深南部	５．発行年 2020年
３．雑誌名 タイ国情報	６．最初と最後の頁 72-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第55巻1号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情－ その54 －タイの公的イスラーム 第１５第トゥアンとタイ語によるイスラーム	５．発行年 2021年
３．雑誌名 タイ国情報	６．最初と最後の頁 62-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山信二朗	４．巻 第54巻第2号
２．論文標題 タイ深南部（南部国境地域）事情ーその51ー ～タイのイスラーム チュラーラーチャモントリーと公的イスラーム(4)～	５．発行年 2020年
３．雑誌名 タイ国情報	６．最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 柴山信二朗
2．発表標題 アユタヤのカーディリー教団:スーフィズムの潮流
3．学会等名 日本タイ学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 柴山信二朗
2．発表標題 タイのスーフィズム:カーディリー教団の系譜とネットワーク
3．学会等名 東南アジア学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 柴山信二朗
2．発表標題 タイのイスラーム カナ・カオとカナ・マイについての小考
3．学会等名 東南アジア学会
4．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	原　新太郎 (Hara Shintaro)		タイ国在住

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関